

製品やサービスの環境への影響を評価する手法であるライフサイクルアセスメント（Life Cycle Assessment：LCA）では、対象とする製品を生み出す資源の採掘から素材の製造・生産だけでなく、製品の使用・廃棄段階までのライフサイクル全体を考慮し、資源消費量や排出物量を求め、その環境への影響を統合的に評価する。この手法は、製品の調和性を評価する手法として国際規格化（ISO14040～14043）され、すでに多くの企業などで広く活用されている。しかし、LCA は比較的新しい考え方であり、その手法についてこれまで様々な研究が行われてきた。その中で、LCA を詳細に行なおうとすればするほどより多くのコスト、労力、時間が必要になることが明らかになってきた。具体的には、環境負荷を定量するためインベントリデータ収集と評価に大変なコストと人的資源が必要となる。現在、高知県内ではこの手法を行なっている企業はごく一部であり、中小企業が多い高知県では取り組みにくいものとなっており、その普及が急がれている。

今回実践したのは、高知県内企業 3 社（(有) intact ・(株) エナジオ・(株) 地研）によって開発、販売されている家庭用環境配慮プランター「もくもく菜園」（2006 年度第 5 回高知エコ産業大賞受賞製品）の LCA 的検討を行い製品の持つ環境負荷量の算定を試みた。算出結果を 3 社に還元し、今後の銅製品の改良や販売活動に活かせるようともに検討していくことで、LCA の普及・啓発を図りたい。

今後、企業から更に詳細なデータの提供を受け、さらに正確な算出を行っていく。